

会議等結果報告書

会議区分	会議 ・ 打合せ ・ 協議	文書番号	315
		決裁期日	平成22年3月11日
名称	上富良野町協働のまちづくり推進準備委員会（第16回）		
日時	平成22年3月10日（水） 午後6時30分～午後8時56分		
場所	保健福祉総合センター1階会議室		
出席者	委員11人 町民生活課事務局3人 合計14名		

内容

[進行：町民生活課長]

あいさつ

丸田会長： 年度末のお忙しい中、16回目の会議に出席いただきお礼申し上げます。3月末に答申書を提出していくため時間も少なくなってきた。今回、意見に基づく修正資料が示されており、たたき台は21ページから進め、本日で終わらせたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

議題

1 協働のまちづくり基本指針（素案）について

丸田会長： 修正資料の説明を受け、内容については全員一致で確認させていただきたいので意見をお願いします。

（事務局から修正資料の説明）

丸田会長： 修正資料について意見をお願いします。

石田委員： 配布された資料を確認させていただき、当初のものから大きく変わったと思う。先の会議で発言させていただいたが、この準備委員会の役割は、次の組織が指針をつくるための素案をつくること。自分としては素案の内容はいろいろと膨らませてもよいとこれまでも意見させていただいた。読みやすさの意見から要約され、まとまってきたものと思う。協働の分類や領域の項目は、次の委員が指針をまとめるうえで基本的な項目と思う。たたき台は協働の分類があって、領域の考え方やその主体、協働の形態を考える流れになっていると思う。文章は読みやすく短く要約することは良いと思うが、項目がなくなることで良いのかどうか確認していただければと思う。

丸田会長： これまでの意見としては、町民にわからなければとの意見で、ことばの使い方、コンパクトにという意見であり、わかりやすくまとめたと理解している。

持安委員： 項目として全文削除が良いのかどうかとを感じる。削除した考え方がわかるとよいが。

佐川委員： どの項目かを示していただければと思う。

持安委員： 項目は3、4、5。

佐川委員： 他と重複しているとの意見から削除になったと思う。13ページ以降に書かれていることが多いとの意見だったと思う。削除した項目で残すべきところを示していただければよいと思う。

松浦委員： 4の項目はわかりやすい図にするとメモしているが、全文削除になっている。わかりやすい図で示すことでどうかと思う。

丸田会長： そのような意見であったか確認したい。

事務局： 3ページから8ページについては佐川委員から示された文章案が良いとの意見でまとまったと思う。図、写真は別に整理することで考えたい。

佐川委員： この準備委員会でつくるものは、行政から提示されたものをそのまま容認して出すのか、委員の意見を尊重してもらい素案として出すのかを確認してはどうか。

丸田会長： 事務局から提示されたものに、わたしたちの意見をまとめ答申として出していくことになる。

町民生活課長： 行政から案を押しつける考えはまったくない。たたき台はこの間の委員の議論の中身を盛り込んだものとして受け止めていただきたい。行政の考えを示したのではなく、委員の議論をまとめたものとして考えていただきたい。文章や表現の仕方があるので、内容を要約されることは良いと思う。項目ごとに文章をつくることは望ましいが、時間もかかるため事務局から議論のたたき台を示した。

丸田会長： 町民が見てのわかりやすいもの、長い言葉はいらないとの意見から、重複した箇所は見直しまとめてきたものであり、意見をお願いしたい。

佐川委員： 休まっている委員もいる。わたしの示した文書もたたき台として提案したもの。皆さんの理解の中でまとめていくことが良いと思う。もう少し時間をかけることはどうか。

町民生活課長： 協議する期間が延びることは良いと思う。

丸田会長： 欠席の委員もおられ、あと少しの時間で意見を出していただくことも大変と思う。1か月程度の4月いっぱいまで伸ばすこともよいのではないかと思う。これから年度末も控え、お互いに忙しい中、話し合う機会をつくってはどうか。

岩田委員： 本日の資料は持ち帰っていただき、次回に意見を持ち寄ってはどうか。

丸田会長： 4月まで期間を延ばすことはどうか。

町民生活課長： 委員の任期延長については、町長から理解をいただいている。

菊地委員： わたしは女性団体連絡協議会の代表として参加している。年度変わりで委員の変更を予定している。

丸田会長： この作業に関しては同じ方が対応していただきたいと思う。

松浦委員： 時間もないので作業は進めた方が良いと思う。

岩田委員： 本日は21ページ以降の議論を進め、次回に欠席委員も含め意見も盛り込んでいくことが良いのではないか。

丸田会長： 本日は21ページから進めることでどうか。

岩田委員： 欠席の委員には、事務局から事前に資料の配布を進めてほしい。

丸田会長： 4月末まで延長し、その後に答申する流れでどうか。

本田委員： 当初は3月末までと期間を決めてスタートした。その信念を基本に3月末までにまとめることを目指してはどうか。

松浦委員： 資料を見せていただき、前回以降読み返してみても削除したところでも追加した方がよいところも出てきている。仕上げるのは3月末までに行い、答申は4月でもよいのではないか。

三島委員： この委員会の期間はまだ1年になっていない。通常このような会議は1年間の期間と思うが。

本田委員： 期間を延ばすことは良いが、決めた期間内にまとめていくのが本来と思う。

丸田会長： みなさん忙しいと思うが3月中もがんばり、4月に入ってもやむを得ないことも踏ま

え、作業を進めてもよいか。

委員： 了承

丸田会長： 21ページから作業を進める。

三島委員： ボランティアのことばの取り扱いは事務局に確認するとなっていたがどうか。

持安委員： ボランティアに関して保健福祉課とも協議してきた。ボランティアは現在、観光、学校支援、子育て支援、生活支援、高齢者福祉の関係など、それぞれが理念を持って活動されている。センターが全てを取りまとめることの考えもあるが、それが実際にできるのかも含めて保健福祉課と話しをしている状況。

佐川委員： ボランティアに関し町長に一般質問した。町長の考え方として、センターを核にしてとの考えであった。

松浦委員： ボランティアにはいろんな人、団体がでてきた。福祉、観光、教育の分野など、横の連携を取ることが大切になってきていると思う。

持安委員： センターが中心になることの考えとして、今はない横の連携を図る中心的な役割と研修などを行うことがある。町全体のボランティアを推進するためのセンターとしての機能について保健福祉課と話している。

石田委員： この素案には現実にセンターがありそのことを書いているので、機能については今後の問題として考えればよいのでないか。

持安委員： 素案に表現することは問題はないと思う。

町民生活課長： ボランティアは、センターも含めているんな団体があることが望ましいと思う。先進地はNPOになっている。今はセンター一つだが、このセンターが全てを担うかはこれからのこと。素案に書いてあることは現在のことを推進していくことであり、特に問題はないと考える。

丸田会長： ボランティアセンターの言葉は残すこととする。

丸田会長： 21ページの について

- ・「～存在しています。」とし、「～が、まだまだ～現状です」を削除
- ・上から3行を削除
- ・下の2行を削除
- ・「一般に企業は～ありますが、」を削除
- ・「企業による～効果があります。」を削除
- ・下から4行は実際のことであり残してもよい

町民生活課長： 全ての企業に社会貢献することを求めているものではなく、また企業にそのような役割があることをいっているものではない。

- ・現状はある程度示したほうがよい
- ・下4行は残したほうがよい

丸田会長： 上から3行を削除とする。

丸田会長： 21ページの について

- ・上から3行を削除、これまで書かれていること
- ・上から7行は削除
- ・各計画には協働を位置づけているので残してはどうか

町民生活課長： 条例や計画は協働をキーワードにしていることを書いている。「自治基本条例」「総合計画」「地域福祉計画」の言葉に要約してはどうか。

- ・協働のまちづくりを重点に、今後の個別計画も協働をテーマにまとめいく流れで書いてはどうか

か

丸田会長： 上から7行は要約する。

- ・「行政組織内部においても情報共有がされていくべきだと思われます」に表現
- ・表現は反感を持つよりは努力しようと思われる方がよい
- ・「特に」からは、「職員個々の協働に対する理解度を高めなければなりません」に表現

丸田会長： 意見のように文言を整理していく。

丸田会長： 22ページ(2)について

- ・5行目の「また～」3行を削除
- ・上から3行目の「～が」は否定的に感じる、「展開されています」に表現
- ・「これまでの行政は、～以上のことを踏まえ、町民と行政の」を削除

町民生活課長： 課題が多いため、現状と課題に分け整理した。

- ・現状と課題は同じに整理された方がわかりやすい
- ・前文は暗いイメージのため削除、項目から示してはどうか
- ・(1)現状は主体ごとに書かれていて、(2)課題は目的に応じた課題になっている
- ・現状と課題でどちらかに整理して書くことも必要

町民生活課長： 現状に対して課題を示したかったが、現状の組織にあてはまらない課題や各組織に同じ課題が出てきたため課題としてまとめた。

- ・「～各主体は活動されていますが～課題があります」に表現
- ・の「～意見交換の場を増やしていく必要があります」に表現
- ・課題の表現として「～必要です」「～必要があります」が良い
- ・先に現状を述べているので、現状や問題点には触れない
- ・の「現状においては、～実情にあります」を削除、「人材の育成が必要です」に表現
- ・の「これまで～一般的でした」を削除、「～必要です」に表現
- ・の「これまでは～困難になっており」を削除
- ・「今後のまちづくりには～望まれてくることから～必要です」に表現
- ・「協働の前提は～参画であり」を削除
- ・ワークショップで「町民は無関心」「行政依存」の言葉は話されてきたことであり意識改革などに盛り込むことが必要
- ・ワークショップの資料は大きくした方がよい
- ・ワークショップの資料はわかりやすい

町民生活課長： 22ページの表のニュアンスを現状の町民と行政の項目、22ページの課題に盛り込むことを考える。

- ・ワークショップで話されてきたことであり、どこかに表現されてもよい
- ・22ページの6行以降を生かす
- ・20ページの「多くの町民の多く」はいらない
- ・課題の表はわかりやすいと思うので生かしてはどうか

丸田会長： 意見のように整理し、表は生かすように工夫する。

丸田会長： 24ページについて

- ・上から2行を削除
- ・(1)の下3行を削除
- ・「システムづくり」の表現は工夫できないか、「協働のための意識づくり」に表現
- ・「意識改革」の言葉の工夫を、「意識の醸成」の言葉はどうか、「醸成」は難しい、小学6年生で

わかるものが望ましい

・次の組織の方も町民なのでわかりやすいものが必要

町民生活課長： 次の組織も研修は必要と思う。

・改革の表現はどこでも使われているのでよいと思う

・「町民の意識醸成」は「意識改革」に統一

・職員向けの行動指針はどうか

町民生活課長： この委員会と同時平行で進めている。

自治推進班主幹： 90数パーセントまで進んでいる。既に十何回書き直している。当初大学の先生が書いた文書のようにわかりづらいと指摘を受けた。自分の言葉で書くようにしている。

・推進の方策はワークショップからの意見であることを示してはどうか、枠外に意見から抜粋とカッコ書きしていく

丸田会長： 25ページについて

・上から6行を削除

・「～政策形成～重要であることから、今後は」を削除

丸田会長： 26ページについて

・意見なし

丸田会長： 27ページについて

町民生活課長： 推進方策の例示はワークショップで出された意見であり、それを提言したものとして受けとめていただきたい。これに示したから必ず実行するというものではないことを理解いただきたい。

・検討と書かれているものはその結果についてお知らせいただけるのか

町民生活課長： 意見の例示として考えていただきたい。

丸田会長： 28ページ以降について

・事例には写真を入れる

・39、40ページの団体の確認を行う

・48ページは大きくする

・55ページは会長が確認

丸田会長： 1ページから20ページまでの修正資料の確認を願う。

自治推進班主幹： 職員の行動指針が出来上がる段階にあり、その中に必要な言葉がある。削除された箇所から復活させていただきたく、次回に提示させていただきたい。

松浦委員： はじまりの言葉はたたき台の感じで書いた方が見やすいと思う。内容の要約は必要。

佐川委員から示されたものは答申書を提出する際のかがみ文書と感じた。

佐川委員： 私の文書もたたき台として出したものであり検討していただきたい。

丸田会長： 次回まで検討され意見をお願いする。

2 その他

丸田会長： 次回会議の日程は、3月16日（火）午後7時からとする。

町民生活課長： これまでの協議で削除された内容に関して、改めて整理し示させていただいたので協議をお願いする。協働を考える上で分野の項目は必要と思う。他の事例にも示されている項目である。事例として、東児童館で行われている3住民会合同の盆踊りは団体の協働であり、お神輿は個人の協働である。いろんな分野でそれぞれの協働があるため、分野とパートナーに示している。

- ・4の項目は事例を基に説明した方がわかりやすい
- ・図はわかりやすくする

丸田会長： 9ページ以降は短く整理したもので改めて協議する。

閉 会

[会議終了：20時56分]